

「主よ、あなたがお存じです」牧師 鈴木善姫

- ・旧約聖書：イザヤ書 53 章 5 節
- ・新約聖書：ヨハネによる福音書第 21 章 15～19 節

イエス・キリストの公の生涯にあたって、12 人の弟子を選んで、寝食を共にしながら彼らを訓練し、伝道者としての働きをさせました。その弟子たちの中で最も多く聖書の中に出ているのは使徒ペトロです。

ペトロはガリラヤ地方の漁師でしたが、イエス様の弟子として召され、その兄弟アンデレと共に主に従いました。聖書の中には、ペトロは勇気があり、弟子たちの中でも先に立って主イエスの命令に従って、弟子たちを導くリーダー的な強さを持っていましたが、あるときは気が短くてすぐ感情的になり、弱虫で欠点が多い、親しみやすい人物として写されています。

マタイによる福音書 16:16 を見ると、主イエスが弟子たちに向かって「あなたがたは私を何者だと言うのか」と尋ねられ、ペトロは「あなたメシア、神の子です」と答えました。すると、主イエスは「あなたは幸いだ。あなたにこのことを現したのは人間ではなく私の天の父なのだ。あなたはペトロ、私はその岩の上に私の教会を建てる」と言われました。そのようなペトロの信仰告白は、教会の土台となり、わたしたちの信仰告白になっています。

しかし、このようなこともありました。主イエスはご自分が十字架につけられる時が近づいたことを知り、神の栄光を現すために弟子たちと離れていくことを告げます。それを聞いたペトロが言いました。「主よ、どこへ行かれるのですか。」主イエスは答えられました。「私の行くところに、あなたは今付いてくることはできないが、後について来ることになる。」すると、ペトロは「主よ、なぜ今ついていけないのですか。あなたのためなら命を捨てます。」と自信満々で言いました。しかし、そのとき主イエスは「私のために命を捨てると言うのか、はっきり言っておく。鶏が泣くまでに、あなたは三度私を知らないと言うだろう。」と言われました。その後、主イエスがローマ兵に捕まえて、大祭司のところで尋問を受けたとき、ペトロはそこまでついて行きました。弟子たちが皆恐れて散って行ったのにもかかわらず、ペトロは主イエスの最も暗い試練の中でも、一番近いところにいたのです。主イエスのことが心配で、気になっていたのだと思います。主イエスに対する深い愛情と思いがペトロをしてそこまで行かなくてはならない気持ちにさせたのかもしれませんが、しかし、群衆の中のある人が「お前もあの男の弟子の一人ではないか」と言うと、「違う」とペトロは言いました。マルコによる福音書 14 章を見ると、ペトロは呪いの言葉さえ口にしながら「あなた方の言っているそんな人は知らない」と誓い始めました。ペトロはこのように三度もイエスを知らないと否認したのです。その時、鶏が鳴く声が聞こえ、「鶏が鳴くまで、あなたは三度私を知らないと言うだろう」と言われたイエス様の言葉を思い出し、外に出て、ペトロは激しく泣いた、と聖書には書かれています。(マタイ 16:69～)

ある意味でペトロのこのような失敗は主イエスを愛したから犯した罪とも言えます。主イエスが

捕らわれてしまったとき、他の弟子たちはみんなどこかへ行ってしまうました。しかし、ペトロだけが身を隠しながらも主イエスについて行ったのです。もし、ペトロがそこまで行かなかったならば、そのような失敗はなかったかもしれません。そのようなペトロの真心を主イエスは愛したのではないのでしょうか。何もしない人は失敗もありません。何かを一生懸命にする人には失敗もあるのです。心を痛み、苦しいこともあるのです。

では、ペトロは、その失敗の後、どうなったのでしょうか。十字架につけられて死んでいく主イエスの姿を見ながら何を考えたのでしょうか。ヨハネによる福音書 21:3 をみると、主イエスが十字架の上で亡くなってしまった後、ペトロは弟子たちに「私は漁に行く」と言いだします。「これですべては終わった。もうすべてを忘れて、もとの仕事である漁師に戻ろう。わたしはこれから魚を取りに行く」ということでしょう。それを聞いた他の弟子も「わたしたちも一緒に行く」と言って舟に乗る場面があります。ここにも気が短いペトロの性格がよく現れています。彼らは舟に乗って湖で魚を取ろうとしましたが、夜が明ける頃までも何にも取ることができなかったのです。

そのとき、復活なさった主イエスが現れました。そして、言われます。「舟の右側に網を打ちなさい。そうすれば取れるはずだ。」その通りに網を打ってみると、魚があまりにも多く取れたので、網を引き揚げるができないくらいでした。そのとき一人の弟子が、その方が主イエスであることに気づきます。ところが、ペトロは「主だ」という言葉を聞いたとたん、上着をまとして湖に飛び込みます。舟は陸からあまり離れていなかったのに、他の弟子たちはそのまま舟で陸につきました。そうなのにペトロはどうして湖の中に飛び込んでしまったのでしょうか。それも水の中に入る人が上着までまとして……。裸を隠そうとするペトロ。主の前で驚き慌てているペトロの姿です。

もしかしたら、ペトロは愛するイエス様を三度も否認したその日からずっと罪責感に襲われていたかも知れません。愛され、そして愛していたイエスに対して犯してしまった自分の罪を嘆きながら、責めながら、眠れない夜を過ごしていたかも知れません。すべてが終わったと思いつつも、心の奥に刻みつけられているイエスと言う存在に対する懐かしさで涙を流し続けていたかも知れません。

そのようなペトロの前に主イエスが現れました。そして、このように言われます。「ヨハネの子シモン、この人たち以上に私を愛しているか。」この人たちがわたしを愛しているより最もわたしを愛しているのか、という言葉の中には、ペトロの心の奥にあるイエスに対する愛、しかし今は恥ずかしくて表に出せない、その愛を確認しているかのような気がします。ペトロは答えました。「主よ、わたしがあなたを愛しているのはご存知です」ペトロは「はい、私はあなたを確かに愛しています。」あるいは「何をおっしゃっているのですか。それは勿論です」と言っていないのです。以前のペトロならばそのように答えたと思います。

戸惑いをもってたぶん小さい声であったでしょう。やっと答えた主イエスは言われます。「私の小羊を飼いなさい」。二度目また言われます。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか」あなたは私を本当に愛しているのか。この魚より、あなたの友達、家族より、あなたの富、名誉、地位、そのすべてより私を愛しているのか。ペトロはまたこのように言います。「主よ、わたしがあなたを愛していることはご存知です。」主よ、わたしはあなたを愛しています。しかし、しっかり言えないのです。私は本当に弱いものです。自分自身について確信することができなくなりました。私があ

なたを知らないと言ってしまったあの日のことをご存じでしょう。あなたはすべて知っておられる方です。私よりも私を知っておられます。

自分自身に深く挫折したペトロの告白です。そのようなペトロに主イエスはまた、言われます。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」三度も言われたのでペトロは悲しくなりました。それで、「主よ、あなたは何にもかもご存知です。私があなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます。」と答えました。あなたは私のすべてを知っています。赦して下さいと言うことでしょう。どうか、私を憐れんでください、そのような告白でしょう。

復活なされた主イエスがペトロに、あなたは私のために命を捨てると言ったのに、なぜ私を知らないと言ったのか、と言われたら、ペトロはどのようになったのでしょうか。主イエスが、わたしたちが犯してしまった罪一つ一つを指摘し、責めるなら、わたしたち、私はどうなるのでしょうか。

主イエスは知っておられました。ペトロの弱さを、心の嘆きを、そしてだれにも話せない恥と悩みを。祈りさえできないくらい、悩み、苦しんでいるわたしたちであることを。そのような私たちにも主は言われます。「わたしを愛しているのか」あなたの罪、あなたの弱さ、それは私の前で大きな問題ではない、本当にわたしを愛しているのか、そうならばわたしはあなたのすべてを赦してあげる。私の羊を飼いなさい。私の大事な羊をあなたに任せる、あなたに特別な使命を与える。

いかに大きな恵みでしょうか。いかに大きな愛でしょうか。

伝えられる話によると、ペトロは、捕らわれて死刑を受けますが、そのとき、私のような罪人は、主イエスのように死ぬことはできない、私を逆さまにして十字架につけてくださいと自ら求め、十字架の上で逆さまになって最期を迎えたようです。

復活なされた主イエスに出会い、赦された恵みがペトロをして、そのような勇気を与えてくれたのに違いありません。

復活なされた主イエスは私たちにも言われます。私たちの罪すべてを横において、主は言われるのです。「本当に、あなたはわたしを愛しているのか」。私を愛するならば、私の羊を飼いなさい。

つまり、各々が主から与えられた使命に生きるよう命じられているのです。使徒としてのペトロには主の民の世話をするよう命じられました。

私たちの使命も同じです。形は違いますが、主の体である教会においてなされる福音伝道のための働きが委託されているのです。私があなたを愛したように自分自身と隣人を愛しなさい、と主は言われます。主イエスの赦しの十字架と復活を伝えていく使命が与えられているのです。

主イエスの十字架と復活のみが挫折した人間、滅んでいく人間を生かす力があるからです。

「彼が刺し貫かれたのは、わたしたちの背きのためであり、彼が打ち砕かれたのは、わたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによって、わたしたちに平和が与えられ、彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。(イザヤ書 53 章 5 節)」